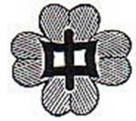




小原小・中学校 学力向上だより



「力」をつける!

平成31年1月30日号
文責 校長 成瀬 啓

「源信頼」(ベーシック・トラスト)

春のPTA総会でもお話をしましたが、幼少期における親子の関係や母子の関係がその後の子供の成長に大きく影響を及ぼすことがわかってきました。そこで、今回は「愛着」による自己肯定感(自尊感情)の芽生えについてお話ししたいと思います。

【動物の子育て】

元上野動物園長中川志郎さんの「中川志郎の子育て論—動物にみる子育てのヒント」によると、動物の子育てには、右に示すような4つの段階があるそうです。

- ①母子密着の時代or母子共同体の時代
- ②舐の時代
- ③子離れ・親離れの時代
- ④群れ同化, 社会科の時代

猿の子育てでは、母子密着の時代に、母親の胸に抱かれたまま2ヶ月間過ごします。その間、母の顔、ぬくもり、心臓の鼓動、鳴き声を間近で感じますが、この時間が子ザルの「源信頼」となり、その後の猿としての礎となるそうです。その子ザルが母親の胸から離れ、群れに同化する際、母親は子ザルに対して群れで育つためのルール等の群れ化するための基礎を厳しく舐ていくそうです。時には強く噛んだりするそうですが、子ザルは絶対反抗しないそうです。母子密着の時代により「源信頼」が子ザルの中に確立しているからです。ところが、何らかの関係で、人工保育されて育った猿は、「源信頼」がないため、群れ化できず、攻撃的であり、子孫を残すことができないのだそうです。例えば人工授精で子供を授かって、子育てできず、殺してしまうこともあるそうです。このように動物の子育てには手抜きは許されず、この4つの段階を順序良く踏むことが、子孫を残すためにも絶対必要となります。



親子の「愛着」による、自己肯定感(自尊感情)の芽生え

それでは、人間の子育てはどうでしょうか? 尚絅学院大学名誉教授の岩倉政城さんは、「『ボクってすごい』『アタシってすごい』と思える子を育てる自己肯定感確立への道すじ」の中で、まず、乳幼児期には、密度の濃い親子(母子)の関係の中で、ボク・ワタシとお父さん・お母さんという、一人称と二人称の関係を確立することが必要であると述べています。そのためには、常に笑いかけられ、身体に触れられ、声をかけられ、ほめられることを通して、「ボク・ワタシはお父さんお母さんといるととって安心なんだ。」、「お父さんお母さん大好き!」と本能で思えることが大切なのだそうです。当然、失敗することの方が多いですが、できたことを認め・ほめることの繰り返しにより、「ボクってすごい!」、「アタシってすごい!」と思える子に育つのだそうです。自己肯定感(自尊感情)の芽生えですね。この親子の愛着による自己肯定感(自尊感情)の芽生えが、人間にとっての「源信頼」なのだと思います。



この自己肯定感(自尊感情)が芽生えていると、幼稚園、小学校に入ったとき、自分と先生、自分と友達といった関係を受け入れることができ、三人称以上の関係をスムーズに作るすることができます。社会性の基礎が作られます。家族に自分が認められているので、友達を認めることもできるのですね。

では、学童期(小学校・中学校)には、この芽生えた自己肯定感(自尊感情)をどのように高めていけば良いのでしょうか? そのヒントは、「家庭での環境作り」と「言葉がけ」にあるようです。詳しくは、次号でお話しします。